

2022年度／2021年度事業案内

川崎いのちの電話

ポストコロナも一悩める心の声に耳を傾け続けますー

わが国では、現在全国で50のセンターが日本いのちの電話連盟に加盟し、自殺予防を中心に、休みなく電話相談活動を続けています。

川崎いのちの電話は1986年12月開局以来、孤独・孤立の中で精神的に悩む匿名の掛け手からの電話相談を受け続けて35年が経過しました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが未だに収まる気配が見えず、人々が日常生活において心身健康上も経済的にも大変な中で、さらにロシアのウクライナ侵攻（戦争）事件が勃発しました。これによって世界経済は大変動を来し経済的負担に耐えられない方が増大するのは必定であり、全人類の上に悩みの根源種が蒔かれたといっても過言ではありません。

人の悩みは種別・大小等、千差万別かも知れませんが、少子化と核家族化、そして超高齢化の中で、更に世代間分断と近隣地域活動におけるコミュニケーション不足が顕著です。加えて貧・富をはじめ種々の格差現象に満ち溢れた現代社会で、弾き出された弱者が精神的に孤立・孤独の世界に追い込まれ自殺に至る窮状を何としても打破せねばなりません。

現政府も担当相を設置して孤独・孤立対策の強化を図っていますが、「いのちの電話」相談員は、行政の手の届かないところで独りもがき苦しむ声を聴き、その悩む心に寄り添い、ともに良い解決の道を探し出す自殺予防のゲートキーパーたるべく、研鑽の努力を重ねて日夜電話を受け続けてまいります。

川崎いのちの電話 理事長
金子圭賢

2022年度事業(活動)計画

1. 1本でも多くの電話相談を受けるため、電話相談体制の充実を図る。
2. コロナ禍が続き、孤独や不安、生活苦などを思い悩む人が増えている。多様で深刻な相談に対応できるよう、研修の充実に取り組む。
3. 会議・研修等のリモートシステムの環境を整備し事業運営や相談活動の安定的継続に取り組む。

○近年減少していた自殺者が一昨年に増加に転じ、マスコミや報道において「いのちの電話」の役割が注目され、期待も大きくなっている。当センターには、昨年度から相談員募集への問合せが増えており、この機に相談員の増員を目指す。

○フリーダイヤル・毎日フリーダイヤルに引き続き参加し、つながりやすい相談電話を目指す。

○コロナ禍での必須のコミュニケーションツールとしてリモートシステムの導入により、研修や内外の会議、公開講座、相談員研修講義等での活用により、事業の円滑な実施を目指す。

○広く市民・企業団体からの支援を仰ぎ、事業運営の財政的な強化安定を図る。

○研修や学習環境の充実により、電話相談対応のさらなる質の充実を図る。

○市民や地元企業・団体・学校などを対象に、自殺予防の啓発や傾聴講座などに研修講師の派遣を行う。

《その他、2022年度は下記の事業を実施する》

○2022年度チャリティーイベント：10月青島広志コンサート、23年3月柳家三三独演会を開催予定

○年3回の広報誌の発行 ○手作り品の製作販売 ○インターネット相談の対応

○自死遺族はっとライン＝川崎市の委託事業(毎月第2・第4木曜日12時から16時まで：044-966-9951)

○こころの健康セミナーの開催(川崎市と共催)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 URL：http://kawasaki-inochinodenwa.jp/

2021年度事業(活動)報告

2020年度から引き続き、新型コロナウイルスの猛威は止まらず、全体研修の延期、公開講座の開催休止(全3回)など、電話相談及び事業運営への影響が大きかった。

1. この1年の歩み

①電話相談・研修業務

- 電話相談業務については、相談環境のコロナ対策の徹底により、2021年度は休止することなく継続して回線を繋ぐことができたが、相談員の減少やコロナ感染予防対策によりつながりがたい状況が続いている。
- 36期の相談員募集は公開講座の開催を中止して実施。面接選考を経て32名の合格者が養成研修に進んだが、コロナ感染拡大の影響で研修は7月からのスタートとなった。その後も中断を余儀なくされながらも、2022年5月から22名が電話実習中。
また37期の相談員募集も、公開講座の開催を中止して実施し、23名の応募があった。(2022年4月に面接選考を実施し15名が合格、7月から養成研修に入る予定。)
- 現相談員の継続研修は、緊急事態宣言期間中は休止。まん延防止措置期間も一部休止となった。年1回義務となっているスーパービジョンは全員が行った。

②相談電話件数・相談員数

- 2021年(1～12月)の相談電話件数は1万2228件、20年比1226件増加(11.1%増)。但し前年は4月から1ヵ月休止期間があったことから、増加したことが考えられる。前々年比では2019年電話件数が1万4866件あったので、2638件減少(17.8%減)となっている。

2. 寄付金一個人・団体の寄付について

- 2021年度会計から経理規程及び会計報告についての改定・修正を行い、従来チャリティーイベントや製作部販売収益の一部について各部門からの寄付金として計上していたものを改め、事業推進部収支として計上することとした。
- 2021年度の賛助会員寄付は290万2000円(予算比16%増、20年度比25.8%減)、一般寄付は283万2046円(予算比34.8%増、20年度比4.1%減)となった。寄付の総額は605万6046円で20年度比15.6%減、年間予算(500万円)を21.1%上回った。

3. 各部門の活動

- 継続グループの代表による相談員委員会を毎月1回開催してきたが、コロナ対応により3回休止した。年度末3月の委員会では、コロナ状況下での各相談員の不安、想いを話し合う場の確保が各委員から求められた。
- 研修が予定通り実施できない中、可能な限りの策を講じながら相談員の養成に努め、現相談員の質的向上に取り組んだ。コロナ禍で内向する心身を解放するエクササイズとして、リラックス・ヨガの体験を前年に続いて実施した。研修担当者もグループスーパービジョンや意見交換などを行った。

4. 川崎市からの受託事業、共催事業

- 市から自死遺族ほっとラインを受託。毎月2回(第2・第4木曜12時～16時、4月は休止)、計26件の受信があった。件数は少なくとも、「ここに話ができる電話がある」ことを大切に取組んだ。
- 自死遺族ほっとライン研修【2022年2月26日 於川崎市生涯学習センター、講師・依田尚志氏(全国自死遺族総合支援センター所属)】を川崎市と共催で実施、21名の相談員の参加があった。
- こころの健康セミナーは、オンラインと会場(川崎商工会議所ビル2階ホール)のハイブリット方式で22年3月21日開催、参加者221名。テーマは「生き心地のよさって何だろう」と題して講演(岡 檀氏、森川すいめい氏)及びシンポジウム(講演者2名と鈴木健氏)を行った。会場とオンライン参加者からの質疑応答も実施した。

5. 講師派遣

川崎市社会福祉協議会「ゲートキーパー講座」川崎市民アカデミー「傾聴ボランティア講座」に講師の派遣を実施した。

6. チャリティー事業

チャリティーコンサートは、「オペラ420年史を90分で！青島広志がご案内」と題して溝の口・前田ホールにて2021年10月9日に実施した。またチャリティー寄席は2022年3月5日、柳家三三独演会を実施した。どちらのイベントにおいても、多数の相談員、関係者及び一般客の参加を得て、広く市民への当法人の事業活動についての周知、啓発ができた。
また両会場において本部、新ゆり両製作部のバザーを実施した。

7. 広報誌の発行

102から104号の広報誌「川崎いのちの電話」を例年通り年3回発行(7月、11月、3月延べ13,500部)した。○102号「聴く力～人をいやすもの～」○103号「うつ病を経て、笑って歌って感動して学び続ける人生」○104号「見たこと感じたことを伝えていく～紺野美沙子さんに聞く～」

8. インターネット相談

合計121件の相談に応じた。20代～40代からの相談が多い特徴が例年続いている。

1. 2021年の相談電話件数は1万2228件、女性の自殺志向が2年連続10%を超える

2021年(1~12月)の相談電話件数は1万2228件。前年比1226件増となったが、新型コロナウイルス流行の影響で担当相談員の減少が続いており、2019年以前(コロナ禍前)の件数だった1万4000件には達していない。1日当たりの平均相談件数は34件。

相談者の男女比率は、男性48.5%、女性51.5%。年代別では、最も多いのが50代で23.1%、次いで40代21.1%、60代16.4%、30代14.6%と続く。

内容別では、「人生(生き方、孤独、コロナ禍など)」が3030件(24.8%)と全体の4分の1を占め、次いで「精神(こころの病気など)」が1982件(16.2%)、「家族」1607件(13.1%)、「対人」1417件(11.6%)となっている。

自殺志向のある相談の割合は全体の9.0%(前年比0.6ポイント増)。男性が7.9%(同1.2ポイント増)、女性が10.1%(前年と同率)で、男性の自殺志向が増え、女性の自殺志向も2年連続で10%を超えた。

年代別の自殺志向は、20代女性が17.7%と最も高く、次いで30代女性が14.1%、40代女性が12.0%。

内容別の自殺志向は、「精神」が16.6%とトップで、次いで「人生」が11.4%、「思想・人権」が10.6%、「経済(生活苦、負債、事業不振など)」が10.2%の順。

総受信件数と自殺志向率

区分	受信件数	自殺志向率
男性	5,932	7.9%
女性	6,296	10.1%
計	12,228	9.0%

相談件数の多い内容

区分	件数
1	人生 3,030
2	精神 1,982
3	家族 1,607

自殺志向の高い年代性別

区分	自殺志向率
1	20代女性 17.7%
2	30代女性 14.1%
3	40代女性 12.0%

■全国のいのちの電話の受信件数との比較

2021年の全国の50センター合計の相談件数は、52万6281件。前年比5527件増となったが、2019年以前(コロナ禍前)の件数には回復せず。川崎センターの占める割合は全体の2.3%(前年比0.2ポイント増)。

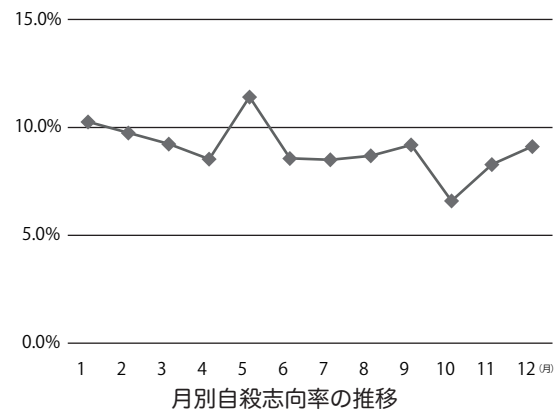
(単位: 件)

区分	17年	18年	19年	20年	21年	
全国	男性	328,972	309,565	305,580	261,093	255,638
	女性	323,935	317,910	304,792	259,661	270,643
	計	652,907	627,475	610,372	520,754	526,281
川崎	男性	6,684	6,640	6,810	5,478	5,932
	女性	7,346	8,031	8,056	5,524	6,296
	計	14,030	14,671	14,866	11,002	12,228

2. 月別受信件数と自殺志向の推移

月別の受信件数は1000件前後で推移している。自殺志向が最も高いのは5月の11.4%で、次いで1月の10.3%。最も低いのは10月の6.6%。

全国の月別自殺者は、3月が最も高く、次いで5月、最も低いのは12月だった。



(単位: 件)

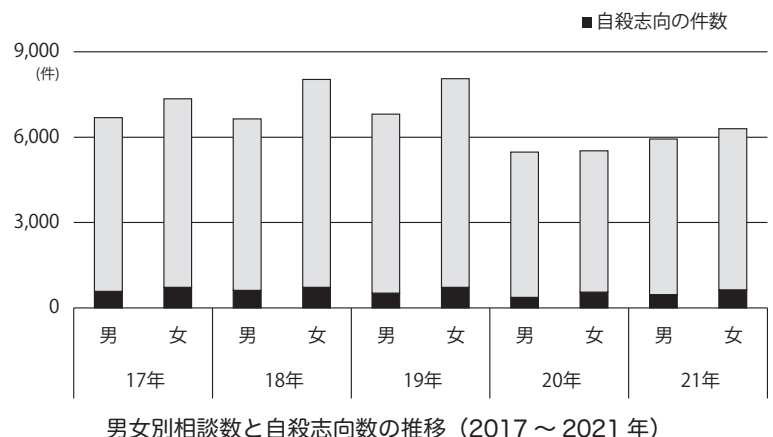
区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
受信件数	1,033	995	1,083	1,020	1,034	1,016	1,070	944	1,034	955	1,002	1,042	12,228
自殺志向率	10.3%	9.7%	9.2%	8.5%	11.4%	8.6%	8.5%	8.7%	9.2%	6.6%	8.3%	9.1%	9.0%

3. 男女別相談数と自殺志向の推移 (2017年~2021年)

相談全体の男女比率は、男性48.5%、女性51.5%でやや女性が多い。自殺志向は2年連続で女性が10%を超え、男性も1.2ポイント増加した。

(単位: 件)

区分	17年	18年	19年	20年	21年
男性	6,684	6,640	6,810	5,478	5,932
女性	7,346	8,031	8,056	5,524	6,296
計	14,030	14,671	14,866	11,002	12,228
自殺志向率 男性	8.6%	9.3%	7.6%	6.7%	7.9%
自殺志向率 女性	9.9%	9.0%	9.0%	10.1%	10.1%
自殺志向率 計	9.3%	9.1%	8.3%	8.4%	9.0%



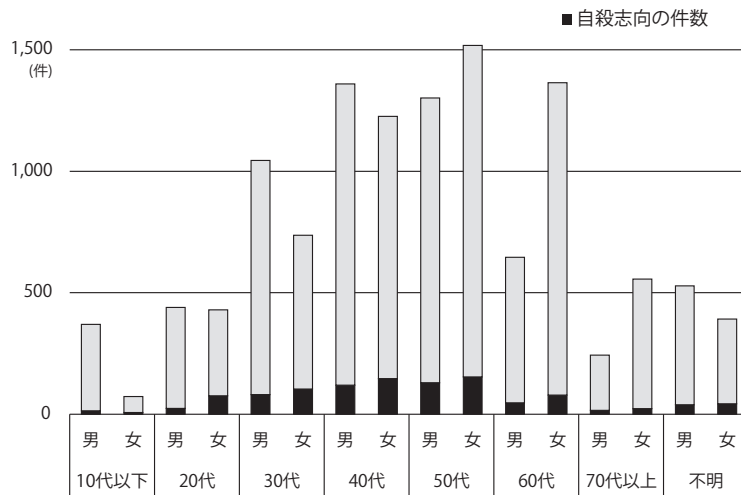
4. 年代別相談数と自殺志向

相談全体では40、50代が多いが、自殺志向が高いのは20～40代の女性。

男性の自殺志向は40代までは女性より低いが、50代で女性と並び、それ以降は女性より高い。

(単位：件)

区分	全体				自殺志向率		
	男性	女性	計	%	男性	女性	計
10代以下	370	73	443	3.6%	3.8%	9.6%	4.7%
20代	440	430	870	7.1%	5.5%	17.7%	11.5%
30代	1,044	737	1,781	14.6%	7.8%	14.1%	10.4%
40代	1,359	1,226	2,585	21.1%	8.8%	12.0%	10.3%
50代	1,302	1,518	2,820	23.1%	10.0%	10.1%	10.1%
60代	646	1,364	2,010	16.4%	7.3%	5.8%	6.3%
70代以上	243	556	799	6.5%	6.6%	4.1%	4.9%
不明	528	392	920	7.5%	7.4%	11.0%	8.9%
計	5,932	6,296	12,228	100.0%	7.9%	10.1%	9.0%



年代別相談数と自殺志向数

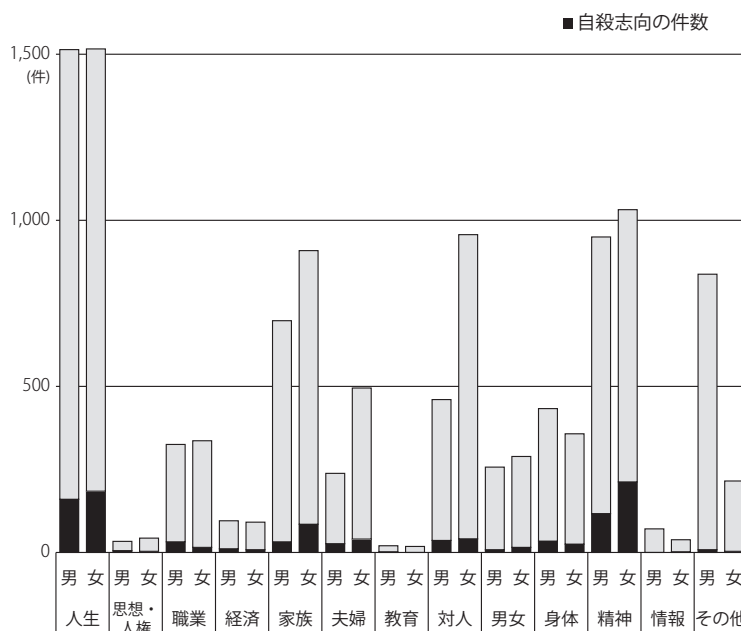
5. 内容別相談数と自殺志向

相談件数の多いのは前年と同様に「人生」「精神」「家族」の順。

自殺志向の割合で最も高いのは「精神」、次いで「人生」。前年最も高かった「経済」は4位に下がる。

(単位：件)

区分	全体				自殺志向率		
	男性	女性	計	%	男性	女性	計
人生	1,514	1,516	3,030	24.8%	10.6%	12.1%	11.4%
思想・人権	33	43	76	0.6%	15.2%	7.0%	10.5%
職業	325	336	661	5.4%	9.8%	4.5%	7.1%
経済	95	91	186	1.5%	11.6%	8.8%	10.2%
家族	698	909	1,607	13.1%	4.6%	9.4%	7.3%
夫婦	238	495	733	6.0%	10.9%	8.1%	9.0%
教育	20	18	38	0.3%	10.0%	0.0%	5.3%
対人	460	957	1,417	11.6%	7.8%	4.3%	5.4%
男女	257	289	546	4.5%	3.1%	5.2%	4.2%
身体	433	357	790	6.5%	7.9%	7.0%	7.5%
精神	950	1,032	1,982	16.2%	12.3%	20.5%	16.6%
情報	71	38	109	0.9%	0.0%	5.3%	1.8%
その他	838	215	1,053	8.6%	1.0%	1.4%	1.0%
計	5,932	6,296	12,228	100.0%	7.9%	10.1%	9.0%



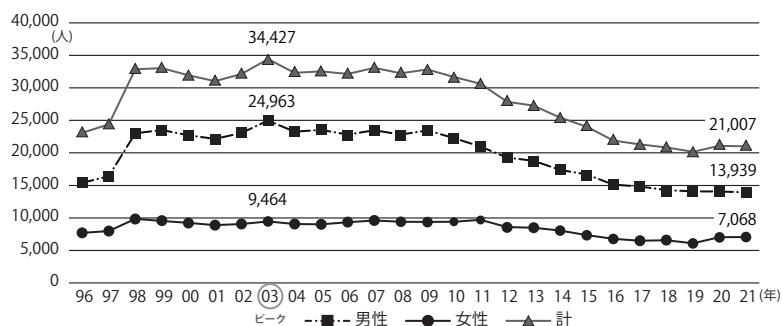
内容別相談数と自殺志向

6. 全国の自殺者2年ぶりに減少。男性は減少、女性は2年連続の増加。

2021年の全国の自殺者は2万1007人で、前年比74人減(0.4%減)となり2年ぶりに減少した。男女別では、男性が1万3939人(同116人減)で12年連続の減少、女性が7068人(同42人増)で2年連続の増加となった。

年代別では、50代が3618人(17.2%)で最も多く、次いで40代3575人(17.0%)、70代3009人(14.3%)の順。増加幅でも50代が最も多く前年比193人増、次いで20代が前年比90人増の2611人となった。減少した年代は60代で前年比158人減の2637人、次いで80代以上が前年比90人減の2214人だった。19才以下は前年比28人減の749人で微減。

原因別では前年同様「健康問題」が多く、次いで「経済・生活問題」「家庭問題」の順だが、「健康問題」が前年比335人減となる一方、「経済・生活問題」が前年比160人増となった。



■川崎市は169人

川崎市の自殺者は169人で前年と比べて26人減少した。男女別では男性106人、女性63人で、男性は女性の1.7倍。自殺死亡率(10万人あたりの自殺者数)は10.97人。

(厚生労働省、川崎市公表データより)

川崎市自殺者数推移

(単位：人)

区分	17年	18年	19年	20年	21年
男性	142	115	127	131	106
女性	64	69	64	63	63
計	206	184	191	195	169
自殺死亡率	13.81	12.22	12.58	12.73	10.97

※2020年の自殺者総数は男性と女性の和数とならない(川崎市データより)

2021年度決算

事業活動計算書

単位：円

収益の部	
科 目	金 額
相談事業	11,975,079
育成事業	1,534,300
受託事業	1,371,179
その他事業	9,069,600
川崎市補助金	5,189,600
共同募金配分金	1,530,000
神奈川県助成金	300,000
日本財団助成金	2,050,000
経常経費寄付	6,056,046
経常経費寄付金	2,832,046
一般寄付	2,832,046
会員会費収入	3,224,000
賛助会費寄付	2,902,000
維持会員寄付	322,000
事業推進部収入	3,050,570
企画部収入	2,553,600
製作部収入	496,970
その他収入	313,022
収益合計	21,394,717

費用の部	
科 目	金 額
人件費	6,242,280
事業費	7,831,567
委員会費	394,927
広報費	454,000
研修研究費	254,170
教育指導費	695,177
企画部支出	2,082,895
製作部支出	361,657
環境整備支出	1,823,632
受託事業支出	1,268,677
その他支出	496,432
事務費支出	5,193,112
事務消耗品	435,695
水道光熱費	564,770
通信運搬費	890,238
修繕費	0
その他支出	1,590,600
減価償却費	1,711,809
国庫補助金等特別積立金取崩額	△389,411
費用合計	18,877,548

サービス活動増減差額	2,517,169
------------	-----------

貸借対照表

単位：円

資産の部	
科 目	金 額
流動資産	30,807,087
現金預金	30,071,229
現金	71,375
事業推進部現金	286,082
普通預金	4,543,366
貯蓄預金	4,896,443
郵便振替口座	5,273,538
定期預金	15,000,425
未収金	478,601
前払費用	257,257
固定資産	107,870,110
基本財産	100,000,000
土地	22,000,000
基本財産特定預金	20,000,000
建物	58,000,000
減価償却累計額(建物)	△10,730,000
減価償却積立預金	10,730,000
その他固定資産	7,870,110
資産の部合計	138,677,197

負債の部	
科 目	金 額
流動負債	524,126
未払金	399,093
預り金	125,033
負債の部合計	524,126

純資産の部	
科 目	金 額
基本金	100,000,000
国庫補助金等特別積立金	29,654,250
その他積立金	0
次期繰越活動増減差額	8,498,821
(うち当期活動増減差額)	2,054,085
純資産の部合計	138,153,071

負債及び純資産の部合計	138,677,197
-------------	-------------

2022年度予算案

事業活動による収支

単位：円

収入の部	
科 目	金 額
相談事業	9,889,600
育成事業	1,830,000
受託事業	1,320,000
その他事業	6,739,600
川崎市補助金	5,189,600
共同募金配分金	1,050,000
神奈川県補助金	500,000
経常経費寄付	5,486,800
経常経費寄付金	2,686,800
一般寄付	2,686,800
会員会費収入	2,800,000
賛助会員寄付	2,500,000
維持会員寄付	300,000
事業推進部収入	3,300,000
企画部収入	2,400,000
製作部収入	900,000
その他収入	55,000
収益合計	18,731,400

費用の部	
科 目	金 額
人件費	7,000,000
事業費	7,701,400
委員会費	510,000
広報費	600,000
研修研究費	800,000
教育指導費	1,400,000
企画部支出	1,746,000
製作部支出	366,400
受託事業支出	1,659,000
その他支出	620,000
事務費支出	4,030,000
事務消耗品	250,000
水道光熱費	550,000
通信運搬費	700,000
修繕費	100,000
その他支出	2,430,000
費用合計	18,731,400

サービス活動増減差額	0
------------	---

<役員名>

評議員

市川 功一 千田 智子 北條 秀衛
 松原 成文 伊藤 初美 堂本 典希
 西村恭仁子 山本 直正 山田美和子
 吉田 伸一 <任期は2025年6月まで>

理事長

金子 圭賢

理事

安達 成功 井田 光政 鈴木 清
 張 賢徳 森 登美夫 小杉 千弦(事務局長)

監事

関口 賢次 増山 雅久

顧問

阿部 孝夫 近藤八千代

参与

有田 茂 <任期は2023年6月まで>

「2022年度/2021年度事業案内」を発行しました。1年間の活動の報告とこれからの1年間の計画、決算・予算の概要、2021年の電話相談の内容などを紹介しています。詳しい内容は、川崎いのちの電話のホームページ(<http://kawasaki-inochinodenwa.jp>)に掲載します。

寄付感謝

2021年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

《個人》

肥塚 由美	梅村由美子	石原 敏光	山田美和子	河合 眞	加藤 紹大	齋藤 正	横川 桂子	金子 圭賢
渡瀬 美来	秋場 静	山岡 道夫	高橋 勉	大石 眞理	小林 直人	坂尾 宜徳	早崎 悦子	増山 雅久
稲川 菊代	尾根 恒	高村 眞	久保美矢子	安達 成功	張 賢徳	稻生美佐子	志田美奈子	渡辺 友恵
近藤百合江	松岡 光子	深瀬 正子	片山世紀雄	石鍋 典子	吉田 伸一	中野 和幸	庄嶋 弘介	粟井 清
久津間康充	村田 章	坂本 治子	目代 健次	安田 享二	中由 光徳	高木 弘美	木澤 静雄	村上カズコ
大谷喜代司	鈴木 恵子	濱田 徹	大塚ふみ子	小林美年子	宮原 信子	加藤トミ子	市川 功一	平井 智子
長塚いつ子	富田美津子	西谷田鶴子	齊藤加奈子	手塚 豊子	松岡 信子	小泉 正博	岡安 敬夫	榎本 晃一
森 多美子	KIM OKHEE	糸 奈津江	吉田 玲香	穴戸信次郎	関 聖一	広島 晴美	藤嶋とみ子	福山 清蔵
羽山 勝雄	山田 長満	藤 雅文	山鹿 文子	村田 紀子	中里 君江	佐々木陽子	今野タネ子	中島 美恵
小出 慶一	池田理夏子	山岡 義卓	山本 苑子	小島 良子	田中 康夫	佐々木智子	前山 英二	平岩圭浦里
山口 芳文	北條 秀衛	梶川 明美	粟澤由利子	橋本 由子	吉田 久弘	飯塚 光子	杉浦 初子	岡本由利子
齊木 貴	武田 信平	西田喜久子	小川 峯子	松尾 信子	太幡世記子	柴田 頼子	長掛 栄一	野口 新二
井田 光政	秦 ひろみ	松島 太郎	菊池 白亮	満留 朝代	山口 恒太	鈴木 頼苗	木崎 光子	助川 公子
林 茂	高梨 斉	佐野 敦子	金子 顕	碓井 俊昭	吉澤 孝彦	島崎 祥子	内田 三枝	奥 秀子
三國 祥子	余湖はれみ	宮坂 源一	原田美千子	西村 治人	西村 俊子	濱岡 公子	笠原 光子	笹川 泰弘
菅沼 雪絵	松本 純子	山本 剛	井上美千代	山下 智子	瀬森 尚羊	漆原 敦子	馬場 邦枝	福田 哲
中島 泰己	森 清	大澤 陽子	山田 将二	磯辺 愛子	梶田みどり	櫻井 貴裕	澤 洋子	小松 終子
中島 美明	鈴木 清	伊藤 彰彦	石原 淳子	碓井 正之	佐藤美津子	伊藤 初美	近藤八千代	茂呂 典子
大久保規矩夫	立川 典子	佐藤 幸子	矢田部光江	瀧野 修	匿名希望20名			

《法人・団体》

川崎北ライオンズクラブ	(株)アップ総合企画	リサイクル募金 きしゃぼん	(株)由貴工務店
(有)太平商事	カリタス学園同窓会	高津区鎮座白髭神社	LC国際協会330-B地区キャビネット事務局
川崎西ライオンズクラブ	川崎ライオンズクラブ	四葉GC	川崎橋ライオンズクラブ
宗教法人潮音寺	金精軒製菓(株)	ケイ・アイ商事株式会社	(有)モクダイ
ジェクト(株)	(株)見村鉄骨グループ	YOKOHAMA BELL ライオンズクラブ	国際ソロプチミスト川崎
宗教法人平間寺	堂本製菓(株)	(有)坂本木工所	(株)ティーカラー
(株)モリエータープライズ	プライムコーポレーション(株)	オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会	高千穂興産(株)
(株)多摩設計	(株)三泉	石原工業(株)	東京恩寵教会 執事会
一般社団法人 川崎市弘済会	川崎北ロータリークラブ	(株)アドバンストホーム	三恵物産(株)
川崎教会教会学校	おくせ医院	日本キリスト教団溝ノ口教会	川崎境町教会
(社)生命保険協会神奈川県協会	元住吉教会教会学校	日本基督教団新丸子教会	学校法人 捜真学院
日本キリスト教団元住吉教会	川崎生田ライオンズクラブ	募金箱	共同購入

■財政支援にご協力をお願いします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約1600万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員	年額	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円
(2)法人・団体会員	年額	10万円	5万円	3万円	1万円	

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先 (1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
(2)他銀行からの振り込み 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座
口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121 平日10時~17時)

■「リサイクル募金 きしゃぼん」へのご協力をお願いします

読み終わった本やDVD・CD、未使用切手・ハガキなどを「リサイクル募金 きしゃぼん」に引き渡すと、その売却代金が川崎いのちの電話に寄付されるリサイクル事業を2020年2月25日から開始しました。

2021年度はのべ37名の方から寄付いただき、合計で78,943円でした。以下のホームページまたはフリーダイヤルで申し込むと、宅配業者が宅配料無料で集荷し、査定金額が川崎いのちの電話に寄付されます。寄付控除の対象となります。詳細はホームページをご参照ください。

リサイクル募金 きしゃぼん ホームページ kishapon.com/kawasaki-inochinodenwa
フリーダイヤル 0120-29-7000(9時~18時)